

鯉学同窓会報

第90号

平成28年7月10日

発行所
茨城県水戸市鯉淵町5965
鯉淵学園同窓会
☎319-0323 TEL.029-259-2811

会長あいさつ



同窓会会長 九石 裕



昨年は学園創立70周年記念事業において、同窓会員の皆さんには特段の協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。今後も学園の発展に寄与できればと役員一同心して頑張りたいと思います。

熊本地震へのお見舞い

今年4月中旬から発生している震度7の本震とあいつぐ余震が続いています。熊本全域と隣接する大分県が大きな影響を受けています。熊本県には70名以上、大分県には40名の同窓会員がおります。被災の報を受け、同窓会では特に被害が大きかった熊本・大分県支部には4月末にお見舞状を出して安否確認をしました。また両県支部役員とも電話連絡をしました。結果、熊本では大きな被害を受けた会員がおられます。お見舞いを申し上げ、1日も早い復旧を願っています。同時に同期生同士の連絡をとって支援をお願いしたいと思います。

70周年記念事業継続について

同事業の記念式典は昨年11月末に開催されました。4期卒大沼淳氏（文化学園大理事長）の講演など内容、参加者も多く大変意義深いものでした。

記念事業は同時に学生の教育環境の整備、奨学金基金の積み増し、学生の教育関連活動（調査研究や国内外での実習など）への支援を主なものとするものです。

今会報の中で報告されていますが中間実績で

約1,000万円から諸経費を引いた募金額の活用が検討されています。同窓会員からの浄財ですので、大切に10年間の予算化を考えて今年度は50数万円の使途計画が具体化されています。学生数から考えると50万円ではあまりにも少ない、せめてこの倍の100万円の予算が組めるよう、事業後半の今年で確保したいと思います。

記念事業の募金期間は今年を含めて2カ年です。税申告時の有利な控除特典もありますので、今回が初めての方、すでに応募済みの同窓会員の皆様の協力をあらためてお願い申し上げます。

学生募集 地域の守り手を学園に送り出そう

18才人口の減少と高卒求人数の高まりの影響から、今春学園への入学者が近年の70名台から10数名が減っております。アグリビジネス科の減少が目立っていますが、入学者の出身県は県外の学生が増えています。

以前から、学園は全国から集まり、学生同士の切磋琢磨は学園教育の特徴の一つでもあります。広い視野から物事を観て考える態度が身につきます。

現在、多くの地方、特に農村は高齢化が進行して若い担い手を求めています。学園では各種の資格が取得出来ます。経験豊かな専門家、若い情熱的な先生がおられます。

同窓会員におかれては、特に自分の出身高校の先生を訪ねて学園の紹介をお願いします。訪問の際は学園応募資料は支部長あて送ってある資料、またはホームページも充実して設置してあるのでぜひ参考にしていただきたい。来春1人でも多くの後輩が学園の門をくぐる事が出来るようご支援をお願いします。

学生募集に特段のお力添えを

公益財団法人 農民教育協会 代表理事理事長 須田 哲也



学園創立70周年記念事業のご支援ご協力に厚くお礼を申し上げます。

寄付募金額では、目標(27~28年度) 2,000万円に対し、初年度既に1,000万円を超え、記念事業も計画的に進んでおります。

2年目に入りましたが、募金目標の必達とともに、続く記念事業である学生奨学金支援や6次産業教育充実などのために、多くの皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、協会・学園は70周年を節目として一層の進展をめざして参ります。

これらの一環として、昨年度から協会役員で構成する経営検討会を設置し、今後の学園の在り方などの検討を進めています。

これは、近年の学園を巡る環境が大きく変化し、少子化の進行や農業の停滞、また学校間の競合激化などから、学生数が年々減少しており、今後の学園運営が危惧されます。

財政運営上も、以前の補助・助成金廃止もあり、農場改革等による赤字解消や経費削減など

徹底して進めるものの、学生数の減少から改善に追いつけないのが実情といえます。このような状況から、教育の充実と学生の増員確保を前提として、学生数の規模別パターンによる事業や財政方策、さらに学生数が必要な計画員数に満たない場合の対応策など、総合的な検討を進めていきます。

当面、29年度の入学生募集を早期に取り組み、その動向を予測しながら、取りあえず8月早々にも検討案をまとめる予定でいます。

また、先般文科省の中教審が専門職大学の開設を答申し、文科省は関連法の改正のうえ平成31年度にも始めたい意向をみせています。

これから制度の詳細や設置基準、助成措置など詰められるようですが、選択肢の重点として検討していきたいと思えます。

更に、学園の運営検討には、行政や他教育機関、企業等からの支援や連携など重要であり、茨城県との協議や東京農業大学との事業連携など継続的に進めて参ります。

今後、学園運営の進展のために、いかなる対応方策や選択肢などを進めるにも、学生数の安定確保が喫緊であり、当面する29年度入学生募集に特段のお力添えをお願い申し上げます。





「学園の存在意義を信じて」

学園長 近藤博彦



若い農業者が不足し農業法人等から学生を送って欲しいという声も多く、栄養士も学生一人に3社の求人がある状況です。学園の存在意義を信じて一層のご支援ご協力をお願いします。

引き続き創立70周年記念寄付金へのご協力をお願いします

昨年は同窓会の皆様方のご協力を得て、創立70周年記念事業に取り組みました。平成27年11月28日（土）の記念式典には、橋本茨城県知事をはじめ多数の来賓、同窓生、教職員等総勢350名の出席がありました。第二部として学園同窓生であり文化学園大学理事長の大沼淳先生に「次世代の専門学校教育に望む」というテーマで記念講演をお願いしました。

さらに、記念事業として、同窓会中心に史跡木碑の建立が進められ、同窓生の活動事例集も発行されました。今後、学生・教職員の国内・海外研修の支援等にも取り組みます。

こうした記念事業を実施するために70周年記念寄付金をお願いし、約300名の方々から1000万円を超える寄付金をいただきました。ご協力に心から感謝申し上げます。なお、記念

寄付金の募集は目標2000万円で、平成29年6月末まで継続して実施していますので、奨学金の充実や6次産業化教育支援のため、さらにも多くの方々にご協力をお願いします。

リーフレット『鯉淵学園自慢』を活用し学生募集声かけ運動をお願いします

昨年の学生募集活動はソーシャルネットワーク活動の開始、県内に重点を置いた高校訪問などにより取り組みましたが、入学者数は54名と大変厳しい結果となりました。高校卒業生の就職状況の改善、農業所得の低迷、18歳人口の減少など外的要因の影響が大きいと思いますが、学園の学生の受け入れ体制や募集活動が十分だったか反省しています。

今年は80人の入学生を目標に、「学生募集声かけ運動」リーフレット『鯉淵学園自慢』を作成し、学園の役職員や同窓生の皆様方に、これを利用して親戚や知人に鯉淵学園を宣伝していただく運動を展開することにしています。

同窓生の皆様方には、会報の送付にあわせてリーフレットを2部同封しますので、親戚や知人で農業や栄養士に関心がある青年がおられたら、鯉淵学園の良いところをお知らせいただき、学園のホームページを見ていただくようおすすめ下さい。



創立70周年記念式典盛大に開催!!



平成27年11月28日（土）晴天下、鯉淵学園農業栄養専門学校創立70周年記念式典、記念講演会及び祝賀会を盛大に開催しました。橋本昌茨城県知事はじめ、数多くのご来賓の方々にもご参列いただき、総勢350名以上になる式典となりました。

第一部記念式典では、はじめに公益財団法人農民教育協会須田理事長からの、創立70周年記念を迎えられた喜びと今後も学園の発展のために尽力するとの決意表明の式辞を読み上げ紹介しました。近藤学園長は主催者挨拶として、学園のこれまでの歴史と変遷、取り組みについて報告するとともに、農と食を取り巻く環境の著しい変化や少子高齢化問題がある中、学園の果たす社会的役割が改めて強く求められていると強調しました。

また、橋本昌茨城県知事、岡田広参議院議員、高橋靖水戸市長、松本広太全国農業会議所専務理事、川上好孝茨城県農協中央会副会長から祝辞を頂きました。

なお、創立70周年記念事業として、学生・教職員の海外・国内研修支援事業、6次産業化教育支援事業、卒業生活動事例集の出版、史跡・木碑の建立などを計画し、財源としての寄付金

を募っており、同窓生を中心として沢山の方々から寄付金を戴いております。10万円以上の大口寄付者の方に感謝状を贈呈しました。

最後に、鯉淵学園同窓会の九石裕会長の音頭による万歳三唱で締めくくりました。

第二部は記念講演とし、学校法人文化学園理事長で日本私立大学協会会長の大沼淳氏（本学4期卒）による講演会を開催しました。演題は「次世代の専門学校教育に望む」で、本学園のような専門学校についてこれからの教育とはどうあるべきか、激しく変わっていく時代の流れにどう立ち向かっていくべきか、熱くご講演いただきました。鯉淵学園在学時の貴重なエピソードを交えた講演をいただき、これからの農





と食を、さらに鯉淵学園をどのように担っていくか、改めて考えることの出来た意義深い講演になりました。

第三部は鯉淵学園学生食堂で祝賀会を開催しました。提供した料理は、主に鯉淵学園産の農産物・加工品および同窓生からの農産物を食材としました。

会場では、ご来賓、関連企業などの一般招待客、同窓生、さらに学園関係者が料理と会話を楽しみました。特に、同窓生の方々は懐かしそ



うに語らい、歓談いただけたようでした。

また祝賀会会場では、本学園の学生の実習・講義の様子などを写したスライドショーを放映し、歓談が一段と盛り上がりました。

創立70周年記念式典が成功裏に挙行出来たことは、同窓会のご支援、ご協力、また関係者の努力によるものと深く感謝しております。これからも日々努力を怠らず、創立80周年、100周年と記念する日を迎えられるよう精進する所存であります。

学園創立70周年記念寄付金募集実績報告と

継続募金への協力をお願い

公益財団法人 農民教育協会



学園創立70周年記念式典は茨城県知事ほか多数のご来賓の方々にご参列いただき、総勢350名以上になる盛大な式典を開催することができました。同窓会員の皆様をはじめ関係各位のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

また、70周年記念事業の一環として募集いた

しました記念寄付金につきましては、同窓生を中心に304名の方からご支援をいただき、平成28年5月末現在で10,269,860円となりました。うち、60名の方から10万円以上の高額寄附のご支援をいただきました。重ねてお礼申し上げます。

さて、記念寄付金の募集活動は、募金額2,000万円を目標に平成29年6月末まで実施しております。同窓生の皆様には、経済環境厳しき折、誠に恐縮に存じますが、募金の趣旨をご賢察いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、10万円以上の高額ご寄付者に対しましては、感謝状と記念品を贈呈のうえご寄付者名を鯉淵学園図書館にパネル掲示させていただきます。

第32回鯉淵学園同窓会大会が 盛大に開催



学園創立70周年の記念すべき年の平成27年11月28日（土）に、第32回大会を開催しました。当日は、午前中に学園創立70周年記念式典が挙行され、記念講演会・祝賀会に続いて本部大会を開催しました。

時節のご多用の中にもかかわらず全国各地から、都道府県支部長、常任委員、監事、一般会員並びに来賓等78名の多くの方々の参加を頂き、盛大に開催することが出来ました事に心から感謝を申し上げます。

支部長におかれましては、北海道、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、東京都、神奈川県、群馬県、長野県、静岡県、新潟県、福井県、兵庫県、香川県、佐賀県、沖縄県の1都1道16県に至る遠路から参加を頂きました。

役員以外の一般参加者は、11期生の傘寿の集いが記念大会に併せて開催され、卒後60周年記念の集大成大会として全国から23名の同志が集いました。その他、地元茨城県をはじめ千葉県、福井県、兵庫県、愛媛県の会員の方々にもお集まり頂きました。

1 平成26年～27年度に実施した主な事業概要については次のとおりです。

(1) 組織活動及び財政確立の推進

- ① 学園創立70周年記念事業に対する意見・要望のとりまとめ
- ② 学園創立70周年記念同窓会事業の「史跡木碑」の建立
学園構内と寮地内に2基建立
- ③ 同窓会会員名簿の更新
- ④ 同窓会報第89号の発行
- ⑤ 同窓会ホームページの更新
- ⑥ 卒業予定者同窓会入会説明会の開催
- ⑦ 同窓会学園内支部の新結成
- ⑧ 各都道府県支部総会及び卒期別集会・各ブ

ロック別集会への参加・支援

⑨ 財政基盤の確立

年会費・永年会費・寄付金等納入の推進



(2) 学園発展のための連携活動推進

① 学園教育を啓発する広報資料の作成

鯉淵学園卒業生活動事例集「地域で輝き食と農を拓く人々」第3号の発刊

② 学園創立70周年記念事業への協力・支援

③ 学生募集活動への協力

④ 農産物直売所支援寄付金募金への協力

一口1万円の寄付運動

(3) 学園の財政支援要請活動

全国農協連、JA全中、全国共済連、農林中金、家の光協会 全国農業会議所への財政支援要請

(4) 同窓会分収林の管理

第二次間伐の実施

(5) 全国農業大学校協議会・農業大学校同窓会 全国連盟との連携

2 平成28～29年度の事業計画並びに収支予算（案）については原案どおり承認されました。

3 役員改選については、新たに常任委員に、江幡ゆき子氏（茨城支部）、富岡忠明氏（東京支部）、中橋友幸氏（学園支部）、大久保美保氏（学園支部）が選任されました。

学生の動向について



学生支援グループリーダー 前嶋 智



日頃より本校の教育にご協力いただきありがとうございます。入学式から3か月あまりが経過し、学生たちも落ち着いて学園生活を楽しんでいます。平成24年度に2年制に完全移行してから4年が経過し、キャンパスは以前より少し若々しい雰囲気が定着してきました。そんな近年の学生の動向について、学生自治会の活動記録をもとに簡単にご報告いたします。

入寮受け入れ

4月1日に入寮生を受け入れました。全寮制を廃止してから寮生の人数は減少し続けております。平成28年6月1日現在、本科生の入寮者は男女合わせて44名です。そんな小さな所帯ですが、3月中に親元から送られた荷物を倉庫に預かり、新入寮生が本館に到着すると、寮へ案内するとともにトラックなどで荷物を運ぶ様子は昔と変わっていません。

5年程前より、入寮受け入れ日の夕方に「入寮式」を行っています。内容は、新入寮生と入寮している上級生および関係職員の顔合わせや寮規則の確認などです。円滑な寮運営をはじめの助けになっているほか、学生支援グループ・組担任などが同席することで新入寮生に安心感を与えられていると思います。

「情報交換会」・自治会総会

4月22日に「学生支援グループ・自治会役員情報交換会」を実施しました。この「情報交換会」は平成15年ごろに学生自治会・学園双方で情報共有を図る公式な場として設けられたもので、毎月ほぼ1回のペースで開催されています。平成27年度は2月27日まで計8回行われ、情報交換のほか自治会役員の悩み相談に乗ることで

自治会運営をサポートしました。

学生自治会総会は臨時総会を経て6月の定例総会で年度計画・予算が決定しました。近年は学生支援グループ、管理グループなどの職員が総会資料作成をサポートしています。

平成27年度学生自治会主要行事 (2015年4月1日～2016年3月31日)

実施日	内 容
4月1日(水)	新入寮生受入、入寮式
4月3日(金)	自治会オリエンテーション
4月22日(水)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
4月24日(金)	臨時総会
5月1日(金)	臨時総会
5月20日(水)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
5月29日(金)	第28回農業大学校東関東スポーツ大会(千葉県)
6月12日(金)	定例総会
6月16日(火)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
6月20日(土)	バスツアー (東京ディズニーシー旅行:35名)
7月3日(金)	年金セミナー
7月23日(木)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
10月1日(木)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
10月16日(金)	三者会
11月1日(日)	学園祭
11月11日(水)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
12月7日(月)	役員改選 報告
1月16日(土)	スキーツアー (猪苗代スキー場:13名)
1月18日(月)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会
2月26日(金)	学生支援グループ職員・自治会役員情報交換会

さまざまなイベント

昭和63年より開催されている農業大学校東関東スポーツ大会は、他校との年に1回の交流戦で体育部の班にとって重要なイベントです。

6月20日には自治会主催のバスツアー（東京ディズニーシー）が開催されました。10年ほど前まではバスハイクと呼ばれていたもので、自治会役員は企画・バス会社との交渉などに張り切って取り組みました。なお、長く自治会の伝統行事として行われてきた富士登山は実施されませんでした。登山経験者が少なくなったことのほか、夏季休業期間・集中実習などの日程が以前よりタイトになって実施しにくくなっているようです。

10月16日には三者会が開催され、協会理事長も交えた意見交換を行いました。

学園祭

学園祭は今でも秋の一大イベントです。2年制への移行に伴い、最上級生である2年生が自治会役員と学園祭実行委員を兼任しています。未成年が半数余りを占めるため、学園祭会場では酒類の販売提供は控えています。会期は1日のみで、「ディスコ班」「銀杏並木イルミネーション」など夜間のイベントも実施しておらず、以前に比べると寂しくなったとの声を耳にすることもあります。しかしながら、地域に親しまれ

ている直売所「農の詩」のイベントを軸に、毎年多くの方々にご来場いただきます。また、多くの企画をアグリビジネス科、食品栄養科の企画として進めるなど教育面も重視しています。

役員改選～卒業

12月に役員が改選されました。自治会組織も現在の学生数・学生の活動内容にあわせて以前よりシンプルに改訂されています。

卒業式後に全学生で行われていた「退寮式」は、希望寮制となってからは行われなくなっています。その代り、卒業生たちの自発的なイベントとしての謝恩会が行われることが多いです（平成27年はアグリビジネス科のみ）。

最後に

以上、簡単に平成27年度の自治会活動を振り返りました。同窓会緒兄弟には寂しさを感じられた部分も多いかと思います。しかし、大学に入りやすい時代に専門学校を選んだ近年の学生からは、以前よりも純粋な真剣さを感じることも多くあります。農業・栄養分野の業界で求められる人物像と学生たちの憧れをうまくつなぎ、必要な能力を身につけた人材を送り出して社会に貢献することが私たちの使命だと考えています。皆様からの温かいご支援を賜りたくお願い申し上げます。



自治会新歓イベント

学園の近況について



副学園長 入江 三弥子



6月にはいって関東が梅雨入りをしたとかで、天気が変わりました。少し肌寒い日が続いています。

4月に入学した学生達も友達ができて授業になれ、楽しい学園生活を

送っているようです。私も学園に在職してすでに約40年を超えましたが、学生達の若い息吹をもらって、元気に仕事をさせてもらっています。

4月入学の学生は54名（アグリビジネス科21名・食品栄養科33名）でした、少子化の流れが学園の中にきています。魅力ある学園作りにもっと励みたいと考えています。

恒例の東関東スポーツ大会は、もう29回を迎えました。今年は優勝をかけた試合が多く、残念ながら準優勝が並びました。でも大健闘でした。

アグリビジネス科では、畜産コースが今年は10名入学しました。これは先進的な農業法人と農場運営の提携を今年度から始める事になり、1,000頭規模の大規模な酪農・肉牛の生産が始まることへの期待があるものと思っています。

学生達は、今は学園ゾーンの乳牛舎で実習をやっていますが、夏には、最新式の農場での実習をすることになっています。

食品栄養科では、昨年は42名の学生が就職し、殆どの学生が栄養士として活躍を始めました。

学生の就職サポートを行うためにキャリア教育チームを作り、校内での企業説明会をおこなって学生への就職活動の動機付けを行っています。

卒業生の方にも来ていただいて、現場での状況や在学中の勉強への取り組み方、職場で働くことなどを、体験を交えて講話してもらっています。

またメイク講座も男女ともに行い、身だしなみについてもお話していただいています。

資格の取得についても力を入れています。資格試験講座を開講し、栄養士実力試験の対策を行っています。

2年制になって今年で8年目になります。3年の実務経験をへて管理栄養士の試験にも挑戦してくれている卒業生の方達のなかで今年も2名合格されています。毎年何名が合格されるか、毎年5月はいつも結果を見て嬉しく思っています。

例年5月の連休をすぎた頃から、新卒の学生達から近況が聞こえ始めます。苦戦をしている場合もありますが、頑張っているお話も多いですね。

また、結婚や子どもの誕生などのお知らせは、なかなか楽しいものです。

鯉淵学園で育った方々が、社会で活躍されている姿を見せていただいて、とても嬉しく思っています。

これからも学生と先生の距離が近い学校であり続けたいと思っています。是非お近くに高校生がいらっしゃれば学園の話をしていただければと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、同窓生の皆様方にご協力のお願ひがあります。

先ず、学生募集について、是非、お力を頂きたいのです。今年の入学生は少なく、大変厳しい状況になっています。来年度の学生確保は目標の80名に到達できるように、全職員一丸となって高校訪問等に全力で取り組んでいるところです。70年の歴史と「鯉淵学園の自慢」を、親戚や知人の方々にお伝え頂き、本学園に関心のある高校生等を1人でも多く確保できるように、ご尽力頂ければ幸いです。

つぎに、学園創立70周年記念寄付金の募集継続についてのお願ひです。既にご協力を頂いた方々には大変申し訳なく存じますが、目標の2,000万円の達成に向けて、更なるご協力を願ひいたします。

学生時代の思い出と現状、そしてお願い



47期 浅津 竜子 (旧姓：市川)



学生時代は栄養部に所属し、学生食堂の栄養士や調理員の給与管理を含む給食施設運営に関わる仕事をしてきました。寮生活では寮長、学年としては学年委員長と勉強をした記憶が無いほど自治

会に貢献してきました。まさに実践教育・・・であったと思われま

す。これらの経験から職員採用につながり早18年の歳月が流れました。この間、4人の子育てをしながらの勤務は、世の中の少子化に逆行するものであると共に、待機児童問題、小1の壁、PTA活動などワーキングマザーに必ずついて回る社会問題との歩みでもあったように思います(そして継続中です)。

現在は公私の経験を活かし、教育面では栄養士として社会で活躍し続けられる力を身につけられるような教育を行うことを心がけ、近年では食品栄養科の就職率は100%近くを維持しています。

学生支援面では自治会支援と寮生活指導を担当しています。全寮制から希望寮制への移行、さらに2年制課程となったことにより自治会活動も寮生活も大きく様変わりしました。現在も学生達と共に模索を続けている状態です。この点は、永遠の自治会役員のような気持ちです。日頃心がけていることは「公平であること」と「学業優先」「現状に合う形」です。

本校のあるべき姿は「職業人としての基本をきちんと身につけさせて社会に出す」ことと考

えています。卒業生がしっかりと社会貢献することで、本校も社会の信頼を得ることができ学生募集につながると思います。

私から卒業生へのお願いは2点です。1点目は1人1人が鯉淵ブランドの職業人として鯉淵を背負って社会貢献して欲しいということ。この点は皆さんが社会で日々、ご健闘されていることと思います。

2点目は後輩である現在の学生達を応援して欲しいということです。現在の社会情勢により学生の家計環境も厳しくなっています。本校の経営状況もご存じのことと思いますが、学費は私たちの学生時代と比較して2倍以上となっています。学生達は資格を得て社会に出るために奮闘したい訳ですが、学費や生活費を捻出するためにアルバイトをする者が多数おりますし、奨学金を希望する学生も多くおります。私も学生時代は鯉淵学園の奨学金を頼りにしていました。本当にありがたかった事を覚えています。

そのような意味でも創立70周年記念事業の寄付募金にご協力いただき、鯉淵学園奨学生を支えていただけますと幸いです。

現：食品栄養科 准教授 給食管理研究室

食品栄養G キャリア教育TL

学生支援G 学生生活支援TL

科目担当：給食管理学、基礎給食管理学、基礎調理学実習、大量調理学実習、給食管理学実習、給食管理学校外実習、食品加工学実習、プロジェクト学習 など



学生募集・記念募金で緊急拡大常任委員会開催



平成28年6月3日（金）、東京都千代田区神田「コープビル」において開催しました。

(1) 入学生80名を目標に同窓会も最大限協力を!

平成28年度の学生募集活動は、SNS活動の開始、さらには、茨城県内及び近県に重点を置いた高校訪問など、教職員一丸となって、取り組んだにもかかわらず、定員100名に対して54名と大変厳しいものとなりました。

その要因は、農業所得の低迷や少子化など外部要因の影響が大きいと考えられますが、学園の魅力や募集活動が十分であったかなど、広い視点から検討するように同窓会からも強く要請したところです。

学園経営の安定を図るには、毎年80名前後の入学生の確保が必要です。学園の教職員が自らの重要課題として取り組むことが当然ですが、同窓会としても最大限協力していこうということで意見交換が行われました。

(2) 親戚の子弟などへの学生募集活動へのお願い

学生募集活動の主体は学園であります。同窓会としても協力していこうということになりました。

各県に農業大学校があるなど、難しい面もありますが、全国から集まる仲間との自治活動や学園教育の特徴などを理解して頂いて、一人でも多く入学して頂くように働きかけていこうということになりました。

また、各県の「JAだより」などを活用して、学生募集広告などに取り組んで頂ければありがたいという要望もありました。

(3) 記念募金がお陰様で1,000万円超えました

昭和20年11月に創立された鯉淵学園は、約7,000人余の卒業生を輩出してきました。しかし、近年は特に国や団体等からの支援が打ち切れ

るなど、学園経営存続にかかわる幾たびかの苦難の道を辿りつつ、同窓会や関係者の英知と努力により克服し、乗り切ってきました。

同窓会の皆様のご支援とご協力に対して、理事長と学園長から感謝の言葉がありました。

これからは自立経営を目指して行く必要がありますので、学園の教職員の資質の向上を図り、教育内容を強化していくことが重要です。

このため、記念募金の使途もソフト中心で「学生支援事業に1,100万円」、「6次産業化教育支援事業に650万円」を計画し、今年度から実施する予定です。

(4) 2,000万円を目標に募金活動を継続

募金活動は今年も続けますのでご協力をお願いします。一口10,000円で大口寄付者に対しては、感謝状及び記念品の贈呈を行うとともに、図書館に名前を掲示します。

また、税額控除制度と所得控除制度など受けられますのでご活用願います。

また、今回の募金状況は県別や卒期別の募金額の格差が大きいことが特徴です。したがって各県の支部長さんはじめ、卒期別リーダーの皆様のご協力や仲間への働きかけをお願いいたします。

(5) 拡大常任委員15人出席、和やかに懇親会

各支部の活動も若い人、女性の出席が少ないなど、共通の悩みを話し合い、古きを想い、学園の未来に向かってお互いに頑張ろうということで、楽しい懇親会をお開きにしました。「出席者名は以下のとおり」

- | | | |
|---------|-------|-------|
| 会 長 | 九石 裕 | |
| 副 会 長 | 西村 勝夫 | 黒澤 賢治 |
| 〃 | 倉辻 芳次 | |
| 常 任 委 員 | 卜部 泰郎 | 志村 隆 |
| 〃 | 新関八千代 | 五十嵐竹男 |
| 〃 | 江幡ゆき子 | 小沼 和重 |
| 北海道支部長 | 中西 孝通 | |
| 宮城県支部長 | 山家 賢藏 | |
| 新潟県支部長 | 重野 徳夫 | |
| 愛媛県支部長 | 大塚 俊秋 | |
| 宮崎県支部長 | 甲斐 次男 | |
| 顧 問 | 須田 哲也 | |
| 〃 | 近藤 博彦 | |

熊本県・大分県在住の鯉淵学園同窓会会員の皆様方へ



去る4月14日と16日に両県に発生した大地震で、被災された同窓生の方々に対しまして同窓会より熊本県67名、大分県36名の方々にお見舞い状をお送りいたしまして、心からお見舞いを申し上げます。

お見舞い状

拝啓 去る4月14日夜半と同16日未明に、御地を稀なる大地震が襲い、被害甚大の由、誠に驚き入るとともに、ご一同様にはご安否いかがかとご案じ申し上げます。連日の報道によりまして、被災の大きさに本当に驚き心を痛めております。

この度の激震に、さぞかし驚かれ、その後も大きな余震が頻繁に続いておりますので、ご不安なことと拝察し、心よりお見舞い申し上げます。

遠地ゆえ、何もお役に立てませんが、皆様のご無事を鯉淵学園同窓会役員一同で、お祈り申し上げます。

どうか、一日も早く余震がおさまり、心休まる日が戻られますことを念じております。

まずは、心よりのお見舞いまで申し上げます。

敬具

平成28年4月27日

茨城県水戸市鯉淵町5965

鯉淵学園同窓会 会長 九石 裕
外役員一同

同窓生からの返信文面の一部

第16期生 本市南区在住の方

この度の熊本地震発生に当たりまして貴同窓会よりお見舞いの便り頂きましたが、幸いにも我家、家族にも大きな被害がなく、安堵しているところです。ご心配頂きありがとうございます。

近所でも瓦が落ちた所が多く、活断層が走った所もあり、地面がデコボコで家が傾いた所もあります。余震が続くために、避難所で暮らす人も多く、公民館、体育館等の施設はどこも大勢の人が宿泊場としておられます。昼は勤めて夜のみ。余震は20～30件続いており、今も震度4がありました。早く余震が収まるのを願うばかりです。取り急ぎ近況をご報告いたしました。

第4期生 大分県津久見市在住の方

今般の熊本・大分地震について早速のお見舞いを頂き、誠に有り難うございました。ご厚情の程感謝しております。

当地は大分県でも南に位置しているため、最大震度3程度で殆ど被害がありませんでした。他事ながらご放念下さい。

今回の事で同窓会皆様のご配慮に力強さを感じますと共に、60余年前に過ごした鯉淵の地を懐かしく思い出しております。末筆乍ら同窓会役員各位のご健勝をお祈りしております。



新入生の生活紹介

鯉淵の里でがんばっています

アグリビジネス科 畜産・加工コース
1年 安場 柊華

(栃木県出身 栃木県立真岡北陵高等学校卒)



私の家は非農家ですが、高校は農業高校に通い畜産を専攻していました。高校での畜産の授業では実習は楽しかったですが座学はおもしろくなく、もっと専門的に学びたいと思い、先生

の紹介で鯉淵学園の存在を知りました。

鯉淵学園は自然の多さと広大な農場、家畜人工授精師、受精卵移植師など取得できる資格が多いところに魅力を感じ入学を決めました。また、鯉淵学園は一つの分野に限らず作物・園芸も管理当番を通して学ぶことができ、畜産にはない面白さにも気づくことができました。

私は現在「畜産・加工コース」を専攻しています。今はまだ専門的に深い講義は受講していませんが、通常実習や特待実習を通して現場の先生方に知識やアドバイスをいただく

ことがあり、とても刺激的な実習ができます。

初めての寮生活は礼儀・人間関係など学ぶことが多いです。女子寮は、寮全体が清潔でとても過ごしやすく、また、先輩方と鍋パーティーなどをして楽しく寮生活がおくれています。

将来の目標は高校生からの夢だった、農業高校の実習助手になることです。きっかけは高校時代にお世話になった先生のようになりたいと思ったからです。先生は牛のことをよく考え他の先生とは違い、表示通りに餌をあげることなく、その日その日の牛の体調や乳量を把握し考えながら餌を与えていて、私も牛をよく観察し、一頭一頭の体調や乳量を把握し考えることができるような実習助手になりたいと思っています。

また、実習助手は必ずしも、専攻した所に配属できないことがないので、すべての分野を学べる鯉淵学園で技術・技能を身につけ、次世代にも農業の面白さを伝えられるようになりたいと思っています。

食品栄養科1年 萩谷 友紀

(茨城県出身 常磐大学高等学校卒)



私は、栄養士の仕事に興味があり、これからの生活の中でとても大切な事である「食」と「栄養」について学びたいと思ったので鯉淵学園に入学しました。

近年では、子供の偏食や欠食・生活習慣病が増加傾向にあり、食に大きな感心が集められています。栄養士の仕事に大きく注目が集められ、栄養と食事の関わりが不可欠なものであると考えられています。

私は、管理栄養士を目指し、様々な人々に

喜んでもらえる地域に貢献した管理栄養士になりたいと思っています。

「タネまきから食卓まで」を目標に掲げている鯉淵学園では、農産物の栽培・収穫・調理・販売までの、一連の流れを学ぶことが出来る事に魅力を感じており、2年間で多くの知識が得られると楽しみにしています。

入学して2か月が経ち、学園生活にも慣れてきて、日々栄養士になるための栄養計算・調理実習などの勉強に精進しています。

これからの2年間で、鯉淵学園の自然豊かな環境で、多くの事を学び、学園生活を楽しくしていきたいです。



先輩の活動紹介

いつもチャレンジ精神をもって

アグリビジネス科 協同組合コース
2年 鈴木 恵太

(茨城県出身 茨城県立多賀高等学校卒)



私の家は非農家で、周りでも農業を営んでいる家も少なく、高校まで普通の勉強しかしてきませんでした。こんな私が農業を学びたいと思ったのは、高校へ入学する前に起こった「東

日本大震災」で、原発から放射能が漏れ出し、海も土地も汚染されてしまったとき、どのように生活していけばいいのかと思ったからです。

初めは環境を調査して改善しようと思いましたが、いつも食べているお米や野菜につい

て学んだ方が、食糧自給率などのこれからの問題にも繋がってくると感じました。

そのような時、農業を学べる学校を調べていると鯉淵学園が目にとまり、早速オープンキャンパスに参加しました。そこで私が見たのは自分の想像を超える広大な農場で、ここなら自分の学びたいことが学べると思い入学しました。

私はこの学園生活で、今までにない刺激的な経験をすることができました。たくさんの出会いとたくさんの笑いがこの鯉淵学園にはあると思います。

これからの学園生活も一日一日を大切に、今の目標であるJAへの就職に向けて頑張っていきたいです。

食品栄養科2年 藤原 菜緒

(茨城県出身 茨城県立佐和高等学校卒)



私は幼いころから母の美味しい料理を食べることが大好きで、母のように美味しいご飯を作りたくて栄養士を目指していました。最初はただ漠然とした目標でしたが母の病気をきっかけ

に管理栄養士を目指したいと思うようになりました。

母は病気を悪化させないためにカロリー・炭水化物・塩分を制限する食生活を送っています。病院の管理栄養士さんの指導で食生活を改善したところ、元々体格の良かった母は約10キロの減量に成功することができました。ですが、食べたいものを我慢して食べないということはとてもストレスになったと思います。母の食生活を間近で見て、母のように食べたくても食べられない人たちに美味しいも

のを食べさせてあげたいと思い管理栄養士を目指す決意をしました。

鯉淵学園に入学してから早くも一年が経ちました。入学当初は授業についていけないのが不安でいっぱいでしたが、熱心に分かりやすく教えてくれる先生方や周りの皆さんに支えられ、今では充実した学園生活を送っています。

献立作成の授業では、たくさんの条件を踏まえてバランス良く食事を組み立てていくので栄養士に近づいている実感がわきます。また、調理実習の授業が多いので調理の知識も技術も一年前より格段に上達していると実感します。

卒業までの残り数か月間、悔いのないよう努力をしてメリハリのある学園生活を送っていきたいと思います。そして、立派な管理栄養士になれるよう向上心を持って日々の生活を過ごしていきたいと思います。

■ 支部・ブロック・同期会の活動

支部長交替のお知らせ

以下の支部にて、支部長が交替致しました。

支部名	新支部長氏名	卒 期	支部名	新支部長氏名	卒 期
岩手県	高橋 勝	26 期	熊本県	井 晴生	26 期

岩手県支部同窓会 平成27年9月5日

岩手県奥州市胆沢区の焼石岳温泉「ひめかゆ」で県支部同窓会を会員22名が参加し、開催しました。総会は、午後3時から開かれ、来賓の同窓会副会長 西村 勝夫氏（22期）から学園の近



況報告等のご挨拶を受けた後、平成26年度活動報告・収支決算、平成27年度活動計画・収支予算がそれぞれ協議し了承されました。その後、役員改選があり、支部長、副支部長、監事が選任されました。総会終了後に新たに完成した胆沢ダムを見学しました。治水面からは北上川の洪水対策、利水面では慢性的な容量不足を解消するため、石淵ダムの再開発事業として胆沢ダムが建設されました。散策は天候に恵まれ、涼風もあり和やかな状態でした。散策後は懇親会に入り近況報告等情報交換をして、最後には全員で肩を組んで寮歌を歌い、次回開催地での再会を誓い幕を閉じました。

文責 支部長 高橋勝（26期）

福井県支部総会 平成27年7月11日

本県の支部は、概ね3年に1回（平成20年7月・24年3月・今回）支部総会を開催しておりますが、今回は入江副学園長をお迎えして、「福井パレスホテル」の別館に於いて開催しました。参加者は、第1期生の藤井大先輩から52期生まで総勢22名の参加を得ての総会でしたが、会は佐藤支部長の挨拶に続いて、小生より簡単な活動経過報告の後、メインであります入江副学園長から「学園の現況について」の報告をして頂きました。内容は学園運営の厳しさと「70周年記念事業」の企画等々について拝聴しましたが、特に学園の存続につ

いては学園側と同窓生のタイアップの重要性を痛感したのは私一人ではなかったはずです。

しかし、会が懇親会に入ると、お互いの近況等の語り合いの中から楽しい一時を過ごし、最後には久しぶりの「寮歌」を皆で歌い、またの再会を約しながら散会しました。

文責 副支部長 保珍良市（20期）



茨城県支部の集い 平成27年10月31日



茨城県支部では、平成27年10月31日に水戸市内の三の丸ホテルにおいて支部総会を開催しました。総会は2年毎に開催しており、当日は来賓として農民教育協会から海老澤義昭常務理事・事務局長、同窓会本部からは九石裕会長の出席を頂き、総勢23名で盛会でした。

総会終了後、学園第10期卒業で元茨城県農業

協同組合中央会会長を歴任され、平成25年秋の叙勲に勳四等旭日小綬賞を受章された常陸大宮市在住の市野沢弘氏の受章お祝い会を同会場で開催しました。

発起人として4期卒の小泉眞吉氏、9期卒の高橋隆三氏、11期卒の倉重一夫氏、13期卒の新地通哉氏、19期卒の倉辻が期別代表として会を盛り上げました。

市野沢大先輩は、学園卒業後は地元農協の勤務を経て、県農協中央会に長年勤められました。その後、地元茨城みどり農協の組合長、県厚生農協連会長、県農協中央会会長等の要職を務められ、県内農協の発展に大きく貢献された功績は、多くの後輩の誇りとなっております。

文責 支部長 倉辻芳次

栃木県支部集会 平成27年11月1日

支部活動で観光果樹園を経営する10期卒の高橋久さんのりんご園で収穫体験をしました。同氏の観光園は宇都宮市の北部日光街道に面している石那田地区にあります。同地区には数戸の果樹園がありますが同氏のリンドは大きくて甘いので評判で、いつも多くの観光客で一杯です。

栃木県支部は短期間活動が休んでいる状態でしたが、現在の新役員体制になってから再び活性化しています。(支部長：34期 池崎誠二、事務局長：44期 鈴木満)



長野県上伊那会集会 平成28年4月28日

新会員の歓迎を兼ねて上伊那会を開催しました。本年の新会員の小林 大君はJA上伊那の職員に、秋田県出身の三浦香菜さん（当日欠席）は（農）みのわ営農の職員に採用され、一日も早く仕事に慣れるよう頑張っています。

当日の大先輩は9期の樋屋喜吉さんで、なんと新会員とは60年の違いがあることに気づき、鯉淵学園の歴史の足跡を感慨深く感じました。伊那の地に就農し3年目となった丸山健太・ちかさん（ともに茨城県出身）夫婦も元気よく花卉栽培に、JA上伊那に就

職した沖縄県出身の福浜由美子さんも元気で頑張っています。

長野県支部長 牛山喜文（23期）



近畿のつどい 平成27年11月7日～8日

1泊2日で開催され、会場は関西地区では有名な保養地南紀白浜町です。同集いは久方ぶりの開催でしたが近畿6県から20名あまりの参加がありました。

今回の実行委員会は和歌山支部長（23期）の松浦義人さんを中心に構成、6県から選出され

準備が行われました。会場での懇親会のほか、翌日には現地視察が行われました。日本一のうめ産地である南部村の急傾斜土地を利用した梅畑、梅干し用の乾燥用ハウス、そしてその周辺にあるウバメカシワの樹木を原料に焼かれた備長炭の記念館、視察の最後はJA紀南が運営する農産物直売所の見学です。柑橘果樹王国和歌山を代表するだけあって規模、内容にびっくりです。ミカンの品数、価格、品質に優れていました。

実際の近畿ブロックは範囲が想像以上に広いです。海から見ても当日参加していましたが兵庫県豊岡市、南は会場になった紀伊半島の南端まで車で高速自動車道路を使っても6時間もかかる広さです。次回開催は奈良県が予定されています。

歓迎 鯉淵学園同窓会 近畿の集い御一行様 迎



四国ブロック集会 平成27年12月6日

鯉淵学園卒業生四国地区大会は、2年毎に各県持ち回りで開催してきましたが、今年は香川県の当番で平成27年12月6日に「こんぴらさん」のある琴平町で開催しました。

参加者は例年より少なかったが各県から15名が参加し、同窓会本部から倉辻副会長の参加を頂き、盛大に開催しました。

会議では、倉辻副会長から学園の近況報告を詳しく説明を受けて現況がよくわかり、参加者も各自が近況報告をしました。

会議終了後は懇親会に移り、積もる話で大いに盛り上がり、最後は寮歌を歌って閉会しました。

翌日は、「こんぴらさん」へのお

参りで、石段785段を登って本宮へ参拝し、さらにその上にある奥社（奥の院）へ石段583段を元気に登り参拝して来ました。

その後は、香川名物の「さぬきうどん店巡り」をして、午後2時にJR琴平駅にて、次回2年後開催の愛媛県での再会を約束して散会しました。
香川県支部長 川崎武司（19期）



11期生「傘寿」の集い 平成27年11月27日～29日

学園創立70周年記念事業に併せ、卒業60周年記念の集大成大会を同時に行いました。場所は思い出いっぱいの内原駅前の「湯泉荘」。当時、週1回の風呂も故障気味、先輩に案内され、寒空の夜半もらい風呂、農場での埃を落としました。

大会前日の11月27日午後4時には、23名の登

録を済ませました。北は北海道から南は佐賀県唐津まで、登録まで済ませ止むを得ず、欠席となった人もいました。

長野 桐生、岩手 佐藤（共）・及川、北海道 沖田、東京 渡辺（ワ）・宮地、鹿児島 中野、茨城 志賀・篠原・柴・野口、鳥取 盛山、静岡 清水、他。



同期会も15回を数え、今回の記念事業の木碑は卒業記念に、昭和31年3月、11本を植栽したものでした。

また平成17年9月には、卒業50周年記念「ゆずり葉」を教室脇に植栽しました。

学園の記憶が、また思い出がお浄土の土になるまで進化発展することを念じています。

実行委員長 野原小右二

17期生集会 平成27年9月28日～30日

卒後早や53年、母校創立70周年の年であり、節目の年でありましたので、今回（12回）を最終回として、23名の参加をもって2泊3日で茨城での開催としました。

1日目は、懐かしいJR友部駅に集合し貸切バスで母校へ、近藤学園長、入江副学園長、恩師西村先生の出迎えを受けました。

園内には、70周年にふさわしく母校の史跡が園内の立木を利用して、威風堂々と建立されていた事に、懐かしさと敬意を表した次第でした。

夜は、つくばグランドホテルで恒例の会食懇親会、宿泊部屋からは筑波平野が一望でき、宴席は言うに及ばず酒に飲まれることなく終始和やかでした。

2日目は、筑波神社参拝・世界遺産日光東照宮・華厳の瀧を回り、夜は鬼怒川観光ホテルに宿泊しました。

最終日には、日本最古の石仏大谷観音を見学



して、心身を癒しつつ、JR宇都宮駅で大半降車し、名残り惜しみつつ現地閉会・解散した次第でした。

以降は、ブロックを中心に「仲良し同期の交流会」として、世話人を立てて開催に挑戦することになりました。

文責 鳥取県 平木郁夫

19期生会in中部 平成27年10月26日～27日

今回は、卒後52年目となり、愛知、岐阜、長野、静岡が幹事となって準備委員会を立ち上げ開催しました。名古屋市内のクラウンホテルに58名（夫婦12組）が集合、元気な笑顔で20歳代にタイムスリップし、参加者一人一人が素晴らしい舞を舞い、振る舞っていただき、1泊2日の日程で親交を深めました。

懇親会ではお互いの近況として、自慢の家庭

菜園や趣味・工作・体力づくり、後期高齢者としての生き様等、話題は尽きることなく続きました。

翌日は懐かしい明治村の見学と、昼食の名古屋ビール園浩養園では名古屋コーチンの焼き肉とビールに活気をとりのどし、その後、名古屋城を見学し、名古屋駅で散会しました。

医者と仲良く、地域と家族に笑顔を、自分の

足腰に力を入れて、感動する事の多い環境を自ら作り、健康で元気に過ごしたいものです。次回は2年後に東京で元気に再会することを一同誓い合いました。

幹事長 愛知県
駸丸義弘



20期生集会 平成27年10月27日～29日

2泊3日で茨城県大子町と栃木県日光市で29名の参加（ご夫婦2組）により開催されました。なお、古希記念感想一言集「なかま」を発行しました。

1日目は鯉淵学園集合で恩師西村先生、砂田先生、現職の秋葉先生より「鯉淵学園の変遷と近況について」お話を頂き女子・男子寮を見学し感無量の一時でした。その後、学園内見学。宿泊地大子町と日光市での懇親会では15人の物故者への黙禱、近況報告、学園時代の思い出（日本農業論・女子寮・夜間実習・水槽前物語）、カラオケ、余興が行われ、最後は寮歌でお開きとなりました。

2日目、3日目の見学研修は大子町の袋田の滝、常陸太田市竜神峡、西山荘、日光東照宮などを廻り、学園終着でした。平成7年に茨城県から始まり、長野・北海道・

沖縄・山形・秋田・福岡・熊本・石川・富山、今回8回目が茨城・栃木・福島で、平成29年は三重・愛知の予定です。今回は21期の小田部久子さん・仲松晃市さんの参加があり、うれしい限りでした。

文責 西野昭子

幹事 茨城（酒寄、西野、内田、綿引）
栃木（佐藤）、福島（鈴木）



22期生の集い 平成27年10月27日～29日

兵庫県神戸市、城崎温泉を会場に10月27日～29日に開催されました。22期生会は5年ほど前から毎年開催されていますが、前年だけは未開催でした。今回は開催幹事が兵庫県でした。たまたま23期生の幹事も兵庫県ということもあって合同懇親会の開催ということになり、会場のホテルの懇親会は最高でした。懇親会終盤には両期の70名を超える同窓生で歌った寮歌で盛り上がりました。来年の会場は群馬県で11月を予定に開催する計画です。



23期生の集い 平成27年10月26日～28日

23期生の集いは2年おきに開催しています。今回は兵庫県神戸市を会場に2泊3日で実施されました。兵庫県のほか、和歌山、京都、滋賀県など関西地区在住同期生により受け入れ準備が行われてきました。当日の参加者数は50名あまりでした。参加者の中には卒業以来初めての人や、十数年ぶりの参加などさまざまですが、みんな懇親会が始まるとあっという間に昔の青春に戻ってしまいます。やはり、同じ釜の飯を食った関係は一生続くものです。

翌日は世界遺産に指定され、そして改修に

なった姫路城の見学です。まさに白鷺の目にしみいる白さの美しいお城でした。そして、戻ったホテルで待ち受けていたのはサプライズの行事です。なんと、22期卒の先輩と合同の懇親会でした。卒業以来初めてです。ほとんど欠席なく同期会に参加していますが、こんな驚きは初めてです。県内支部活動では何人かの先輩と会うことはありますが、県外の先輩と会う機会はほとんどありませんでした。参加した22、23期の両方の同窓生も大いに感激しておりました。

文責 九石 裕



会費納入にご協力をお願い

全国の会員の皆様方には、日頃から同窓会活動に一方ならぬご支援ご協力を頂き、心から感謝申し上げます。

同窓会は学園と連携して事業を進めておりますが、事務局運営も年々財政的に厳しい状況に置かれております。

同窓会の円滑な運営を図るためには、全国会員の方々に会費納入にご協力頂くことにかかっております。

特に、現役世代の会員の方々には、大変ご負担をおかけ致し誠に心苦しいお願いではありますが、諸事情をおくみ取り頂きまして、是非、会費納入にご協力賜りますようお願い申し上げます。

併せて、各都道府県別により会費納入のご協力の度合いに違いが見られますので、大変失礼とは存じますが、青森、秋田、石川、岐阜、静岡、三重、奈良、和歌山、鳥取、徳島、香川、愛媛、高知の会員の方々には特段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

追 悼

謹んでご冥福をお祈り致します。

北海道	通3期	野上	直義	平成26年	長野県	1期	武田	照美	平成20年
北海道	通4期	芝坂	若一	平成27年5月	長野県	4期	小林	道男	平成27年11月25日
北海道	通5期	阿部	正		福井県	24期	田中	与志雄	平成27年5月14日
北海道	研6期	佐相	正敏	平成25年	岐阜県	3期	今福	正	平成24年3月
北海道	15期	宮本	規次	平成27年6月5日	愛知県	1期	古瀬	敏雄	平成27年8月21日
岩手県	通4期	細田	省三	平成26年6月11日	愛知県	通1期	高村	登	平成26年1月26日
岩手県	16期	飯坂	功	平成7年	愛知県	通2期	小島	昭三郎	
岩手県	19期	菊池	博美	平成27年9月	愛知県	3期	渡辺	悦次郎	平成27年8月
秋田県	8期	松本	茂	平成27年12月4日	兵庫県	16期	井口	善弘	平成26年3月10日
山形県	9期	長南	叶		京都府	2期	小雲	明	
福島県	通1期	窪田	喜代衛	平成27年1月	滋賀県	通3期	泉	明	
栃木県	通4期	大橋	安森	平成26年8月	滋賀県	通4期	福永	敬仁郎	
栃木県	1期	西田	泰人		三重県	16期	中村	祐次	平成27年5月
茨城県	通2期	伊佐間	広次		広島県	2期	加藤	春美	平成26年9月28日
茨城県	研8期	野村	祐三	平成28年1月19日	鳥取県	19期	加藤	耕寿	平成27年1月11日
茨城県	10期	川上	進介	平成26年5月28日	鳥取県	23期	門脇	久子	平成27年10月26日
茨城県	11期	志賀	陸男	平成27年9月3日	香川県	4期	津森	重郎	平成25年12月
千葉県	15期	西澤	弘毅		香川県	5期	仙波	岩己	平成26年11月7日
埼玉県	3期	藤本	績	平成26年7月16日	香川県	選14期	富家	優	平成28年4月16日
千葉県	3期	川原	富夫	平成26年10月26日	福岡県	22期	白山	豊茂	平成26年12月
東京都	5期	大場	敏正	平成26年5月	熊本県	4期	早上	三男	
東京都	7期	大島	重美		熊本県	通4期	猪原	健一	平成27年
東京都	11期	宮地	勉	平成27年5月	熊本県	18期	西川	カツコ	
東京都	16期	土方	貞信	平成28年1月15日	大分県	通1期	御手洗	林平	平成24年12月27日
新潟県	通1期	松永	全		宮崎県	通2期	黒木	倉吉	
新潟県	通2期	行田	喜佐一	平成27年7月11日	宮崎県	通2期	内勢	房夫	平成27年5月
新潟県	通4期	井澤	文也	平成26年9月5日	鹿児島県	通4期	溝田	廣	平成20年
新潟県	45期	菊池	義博	平成28年1月	鹿児島県	11期	中野	重雄	平成27年8月
富山県	通1期	滝脇	敏	平成26年					

会費及び寄付金納入者

納入期間 平成27年8月1日～平成28年6月30日
この期間に納入された方のみ掲載いたしました。

永年会費

平成27年8月1日～

平成28年6月30日

岩手	⑩	菊池	芳子
福島	⑭	三部美	津子
茨城	⑪	小林	年寿
茨城	⑳	村上	隆雄
茨城	⑳	谷澤	治
茨城	特⑳	加藤	洋明
茨城	④③	大森	祥子
茨城	⑤①	飯泉	明久
茨城	⑥⑦	本多	由佳
茨城	⑥⑦	吉村	洋平
栃木	③⑧	津久井	宏
埼玉	⑳	植木	清治
埼玉	③①	岩崎	祐子
新潟	⑳	佐藤	恒平
長野	⑳	栗林	健
大阪	④	荒木	秋男
鳥取	③①	西平	宏通
島根	③⑦	藤田	雅一
愛媛	⑳	戸田	歳明
福岡	⑳	三島	守人
鹿児島	⑳	桃木	重隆

年度会費

平成27年8月1日～

平成28年6月30日

●25年～26年度分

茨城 ⑳ 村上 隆雄

●26年～27年度分

北海道	⑰	升田	文夫
北海道	通③	本間	正夫
青森	通④	江刺家	貞雄
岩手	⑭	芳賀	正美
岩手	⑳	高橋	勝
秋田	⑭	西田	貞夫
茨城	③①	沼尻	宏文
茨城	特⑳	齋藤	博
茨城	⑦	松田	喧信
埼玉	通⑤	岡田	孝雄
石川	④⑦	山下	弘蔵

長野	通⑤	長尾	孝晃
島根	④③	長崎	康弘
山口	⑳	神出	登
高知	③	廣見	汎
鹿児島	通③	持留	正道
沖縄	④⑥	宮城	明生

●26年～29年度分

京都 通② 久下 寛

●27年～28年度分

北海道	通④	加納	豊造
宮城	通③	高橋	文男
宮城	通③	板坂	登
宮城	通④	中鉢	英昭
宮城	⑤	熊谷	俊
山形	③①	加藤	忠
山形	⑰	保科	周三
茨城	⑥⑧	広長	峻
茨城	⑳	本田	豊
茨城	⑤①	本田	誠
栃木	⑳	高木	義枝
埼玉	⑥①	小林	浩己
神奈川	⑬	眞弓	千枝
新潟	⑰	丸田	徹
長野	⑰	桐生	純治
山梨	④②	樋川	治久
岐阜	⑰	水野	富郎
京都	⑳	奈良井	真
兵庫	⑩	奥田	和夫
高知	通②	和田	幸雄
長崎	⑳	尾崎	原喜
熊本	④③	那須	良
鹿児島	通①	酒匂	博
沖縄	⑳	金城	正春
沖縄	④②	石垣	貴史

●27年～30年度分

茨城 ⑥④ 富山 大地

●28年～29年度分

青森	③⑧	成田	真理乃
岩手	⑳	武田	猛見

宮城	④①	木村	貴信
茨城	⑥⑤	上野	圭介
茨城	⑰	及川	徳江
埼玉	通⑤	菅谷	初夫
千葉	⑰	卜部	泰郎
新潟	⑳	田上	政則
富山	⑰	松島	徹雄
福井	⑳	西口	康士
愛知	⑳	宇田	義信
大分	④	安倍	兵吾
大分	④	丹波	新吉
熊本	⑥②	坂部	昌春

●28年～31年度分

島根 ⑳ 安藤 知子

●29年度分

長野 通③ 小松 正一

●29年～30年度分

茨城	⑰	若林	均
茨城	特⑳	中村	修一
新潟	⑳	角山	優子
兵庫	⑳	田中	義治

●30年～31年度分

長野 ⑳ 中原せつ子

同窓会寄付金

平成27年8月1日～

平成28年6月30日

秋田	⑳	山本	平男
秋田	⑳	山本	嘉子
福島	⑤	大塚	和吉
福島	⑳	齋藤	恒子
茨城	⑰	及川	徳江
茨城	⑬	大越	正子
茨城	⑰	宮内	幸司
茨城	⑳	村上	隆雄
茨城	⑥④	富山	大地
茨城	⑥⑤	上野	圭介
栃木	⑳	熊田	佳奈
栃木	⑰	青木	栄吉

群馬通③ 大澤 義郎
 千葉①⑨ 卜部 泰郎
 千葉③⑥ 山辺 敦子
 埼玉⑫ 室岡 順一
 新潟⑫⑤ 佐藤 恒平
 新潟③⑤ 土屋 誠
 富山⑪ 竹内 敬俊
 福井通③ 河村庄右衛門
 福井⑱ 佐藤 穂栄
 長野通③ 小松 正一
 長野⑱ 林 弘旦
 長野⑩ 市村 雅
 長野① 故 武田照美
 京都⑲ 和田 和子
 岐阜⑦ 瀨瀬 正義
 愛知⑳ 宇田 義信
 大阪⑪ 公庄 達一
 大阪② 北島 隆
 鳥取⑰ 平木 郁夫
 山口⑳ 段田 恭範
 山口② 梅下 巖
 愛媛⑳ 戸田 歳明
 高知⑳ 山下 秀雄
 福岡⑳ 故 白山豊茂
 福岡⑳ 三島 守人
 大分通① 故 御手洗林平
 鹿児島通③ 持留 正道
 鹿児島通② 畑中 勝美
 沖縄④② 石垣 貴史

沖縄⑳ 喜納 博文
 沖縄⑳ 大田 治雄

茨城⑯ 宮内 幸司
 茨城⑥⑤ 上野 圭介
 新潟③⑤ 土屋 誠
 新潟⑳ 角山 優子
 富山⑪ 竹内 敬俊
 福井⑳ 西口 康士
 福井通③ 河村庄右衛門
 長野通③ 小松 正一
 京都⑲ 和田 和子
 兵庫⑬ 鞍田 三穂
 山口⑳ 段田 恭範
 福岡⑳ 三島 守人
 鹿児島通② 畑中 勝美
 沖縄⑳ 喜納 博文

実証研究寄付金

平成27年8月1日～

平成28年6月30日

北海道⑳ 佐藤 雅子
 青森⑳ 成田真理乃
 秋田⑳ 山本 平男
 秋田⑳ 山本 嘉子
 福島⑨ 根本 誠
 福島⑳ 齋藤 恒子
 茨城⑳ 谷澤 治
 茨城⑳ 村上 隆雄

納入者全員に同窓会から領収書を発行し、送付しております。

永年会費納付案内 平成28年3月の新卒業生は69期生

卒業後の経過年数	卒 期	金 額
新卒業生～5年	69期～65期	40,000円
6年～10年	64期～60期	37,500円
11年～15年	59期～55期	35,000円
16年～20年	54期～50期	32,500円
21年～25年	49期～45期	30,000円
26年～30年	44期～40期	27,500円
31年～35年	39期～35期	25,000円
36年～69年	34期～1期	22,500円

※郵貯振替口座：00330-2-1632 鯉淵学園同窓会

※編集委員からのお願い

○「支部・同期の動向」等へいつもたくさんの情報をお寄せ頂きありがとうございます。
 編集及び紙面の都合上、報告原稿は概ね400字程度で、写真等もございましたら同窓会事務局までお願い致します。
 今後とも皆様からの情報・お便りをお待ち致して

おります。

○追悼欄は、事務局へご連絡を頂いた方のみ掲載させていただきます。同窓生の方で情報が得られた方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までお知らせ下さい。

編集後記

今年もまた暑い季節がやってまいりましたが、同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。また、熊本県地方の地震・豪雨の影響を受けていらっしゃる皆様の現況も非常に気がかりです。被害に遭われた皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

昨年、鯉淵学園は創立70周年を迎え、また新たな歴史に一步を踏み出しました。記念式典にお集まり頂いた卒業生・先輩方から学生時代の

先生や講義・寮生活の話し、银杏並木での思い出、これからの学園の事など沢山のお話を伺うことができました。活字や写真も勿論ですが、こうしたお話に耳を傾けると、それぞれの時代の変化・流れと云うものが肌身で感じとることができるとともに、現在学園で職務にあたっている者としての重みを改めて痛感させられています。

編集委員 46期 秋葉勝矢